

新人看護職員実地指導者研修が終了しました。

看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部改正により、新人看護職員研修の努力義務化が制定されました。それを受け新人看護職員研修を円滑に実施・運営する能力を養う目的で、毎年5日間の研修を開催しています。今回は第1～3回の研修の様子をお伝えしたが、今回は第4回・5回の研修をお知らせします。

第4・5回は、素川 美雪先生（和歌山赤十字看護専門学校 専任教師）の講義・グループワークでした。前3回の研修では、看護基礎教育の現状、新人看護師の技術習得状況、学習に関する基礎知識、メンタルサポート支援 等について講義・グループワークで新人看護師の特徴や指導者としての役割を学びました。また、指導が難しいと感じる場面について話合うこともありました。

それらを基に、素川先生の講義では所属する病院の理念の確認から始まり、どのような看護職を育てたいのかを再確認しました。そして、自部署における指導の課題を明確にしていく作業をし、指導する技術を決定、現場で新人看護師に指導を実施、その振り返りをレポートにまとめ提出する課題がありました。

< 第4回 8月2日 意見交換で指導の課題を明確にする >



第5回目は提出されたレポートを50名が発表し、知識・技術・態度の習得を支援する指導の難しさも再認識しました。その後、「理想の指導者像」をグループで話し合い模造紙に図式化し全員で共有しました。

< 第5回 11月9日 課題の発表と「理想の指導者像」を図式化している様子 >



全課程5回を終了しての感想は、「他の病院の新人の状況なども聞いた」「みんな同じ悩みを持っていることが分かった」「皆さんの指導方法や指導に対する思いが聞けた」「間隔をあけての研修は新人看護師の成長と合わせて聞くことが出来たので良い学びとなった」「今の新人看護師指導だけでなく来年度の教育計画を立てていくうえでも勉強になった」「新人教育に必要な新人特性及び基礎的なこと、ガイドライン等を含めて知ることができ、今後の新人への対応の参考になった」など様々でした。